

安全指導だより 7月号

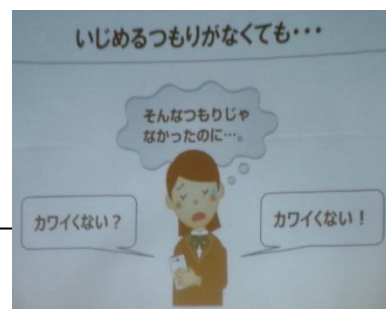
令和6年7月19日(金)
西東京市立田無第四中学校
生活指導部 安全指導係

<セーフティ教室を実施しました>

インターネットのトラブルから身を守るために、中高生のSNS利用の実態や被害、対処法など、具体例を聞きながら、自身の使い方について考えることを目的として7月11日にセーフティ教室を実施しました。講師として、株式会社NECソリューションイノベータから講師をお招きしました。

参加された生徒、保護者の方の感想の一部抜粋です。

- ・インターネットはこの世界の中で一番怖い存在だと思いました。ネットでは顔も知らないのにスマホで話したり、知らない人に顔を簡単に見られたり、家も特定できたり、インターネットはいろんなことができるのが改めてすごいなと思ったし、怖いと思ったのでこれから十分に気をつけたいです。(1年生)
- ・今後、インターネットを使うときは、ネット依存症にならないように制限時間を決めたり、インターネットがない環境へ行ったりしようと思う。ネット依存症になってしまうと日常生活に害を及ぼしてしまうから、気をつけようと思う。(1年生)
- ・今日の講演をきいて、インターネットで人の嫌がることや、自分がされて嫌だと思うことなどは「絶対」にしてはいけないということを改めて学びました。(2年生)
- ・インターネットを包丁にたとえたことがとてもわかり易かった。正義の味方になったつもりで興味を惹きつけるために深く考えずに行った行為が、炎上したり特定をされてしまうなど大変なことになることがわかった。(2年生)
- ・毎日のように利用しているスマホなどのSNSには、思っていたよりもずっと犯罪や人を傷つける危険が潜んでいたんだと気がついた。身近で自分に関係のあることだからこそ、これからはいつも以上に先のことを考えて利用したいと思った。肖像権、著作権、個人情報など、注意すべきことが今回の講演でよくわかったので特に気にかけていきたい。(3年生)
- ・インスタのストーリーなどに写真を投稿する時は、一緒に写っている友達にアップしていいか許可を取ったり個人情報が載っていないかなど十分にチェックしようと思った。また、その投稿で見る側の人たちが不快な思いをしないか考えることも大事だと思うので実践していきたい。(3年生)
- ・SNSは使い方によっては、包丁のように危険であることが分かった。写真3枚から身元が分かるのは恐ろしい世界だ。(保護者)
- ・SNSの使い方、危険についての動画が子どもによく考えさせる内容になっていて、勉強になりました。家でも想像力を働かせてネットを利用し、ネットに支配されることのないように家族で話し合いたいと思いました。(保護者)
- ・子どもがSNSで何回かトラブルがあったので参加しました。この講演をもっと早く聞いていれば防げたかなと思いました。今後の子どもたちの行動も変わってくると思いました。(保護者)



<落とし物のお知らせ> 落とし物ロッカーの場所: 校長室前

ワイシャツ・水筒・メガネ・ベルト・靴下・帽子・日焼け止め・水泳のゴーグルなどあります。心当たりのある人は担任の先生に申し出ること。

<海・川・山などでの危険に気を付けよう>

これから夏休みに入ると、海に行く機会が増えるかもしれません。下記に紹介する事例や安全対策を確認してから海へ行き、安全にマリンレジャーを楽しんでください！

(資料：東京海上保安部「児童・生徒に対する海浜事故防止リーフレット」より)

事故者(東京都在住、小学生)は、家族とともに夏休みに茨城県の海岸を訪れた。(遊泳禁止場所)両親がバーベキューの準備をしている間、姉(中学生)らと波打ち際で遊んでいたが、離岸流により流されてしまった。父親が助けに向かったが、海水を誤嚥してしまったため一旦砂浜に戻った。その後砂浜にいた母親から通報がなされたもの。翌日約600m離れた海中で発見された。(死亡事故)

▲事故の原因▲

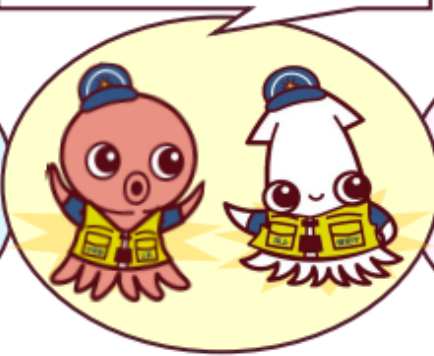
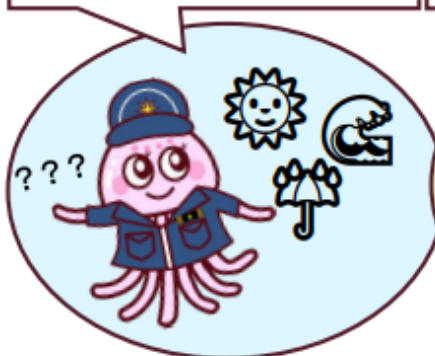
- ☑遊泳禁止場所で遊んでいた
- ☑波打ち際だからと救命胴衣を着用していなかった
- ☑保護者の監視外で遊んでいた
- ☑海のこと(離岸流の存在)を知らなかった

事故を防ぐためには

◎海で遊ぶ前に天気予報をチェックしよく晴れた風の穏やかな日に遊びましょう！

◎海で遊ぶ時はサイズの合った救命胴衣を正しく着用しましょう！

◎海で遊ぶ時は子供から絶対に目を離さないようにしましょう！



海の事件・事故は「118番」!!!

海だけでなく、川や山での危険にも気を付けてください。

川に行く前は天気や川の情報をチェックしましょう。
急な雨で、川が増水することもあります。川についたら
安全を確認しましょう。看板やリアルタイムの情報を
確認し、ライフジャケットの着用をしましょう。
川の事故の約90%は、穏やかな流れや浅瀬で
発生しています。増水の前ぶれや警報が鳴ったら直ちに避難をしましょう。

本格的な夏山登山の時期においても、依然として遭難事故が多く発生しているようです。登山における遭難事故は天候に関する不適切な判断、不十分な装備、体力的に無理な計画を立てたことなどに起因することが多く、リスク管理の観点から事故防止を図るための万全の措置を行うことが必要です。また、火山には、噴気や火山ガスが発生している危険な場所があります。登る山が火山の場合には、気象庁や各都道府県等が発表している最新の情報を入手し、十分に注意する必要があります。